

## 第4節

### 障害の発生年齢及び原因

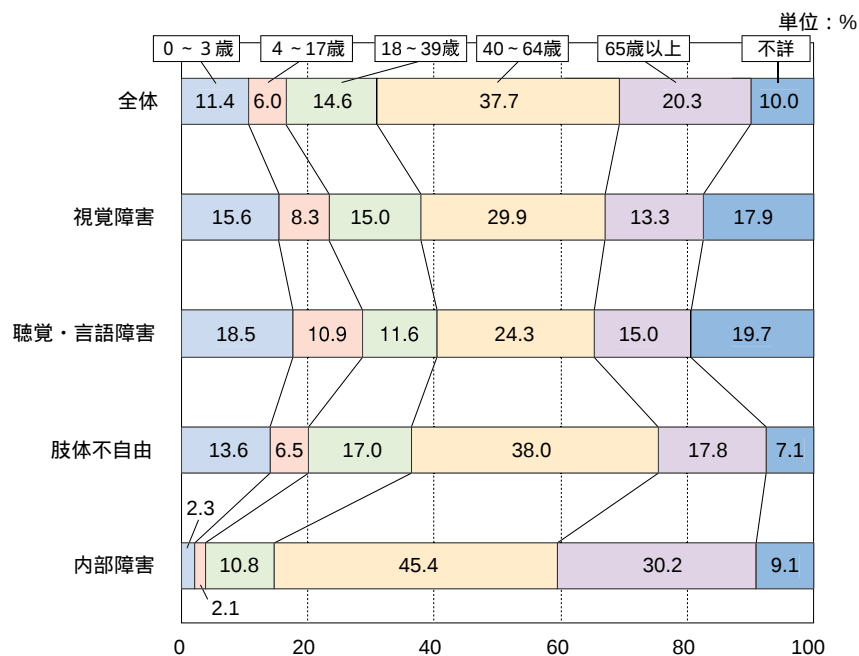
#### 1. 身体障害の発生時の年齢

在宅の身体障害者(18歳以上)について、障害の発生時の年齢分布を見ると、40歳代

以降の発生が6割近くを占めており、65歳以上の発生に限っても2割程度ある。

障害種類別で見ると、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由ともに40%前後が40歳までに生じているのに対し、内部障害では40歳までの発生は15%程度に過ぎず、大半が40歳以上で生じている。これは、内部障害では中高齢期に生じた心臓や腎臓等の臓器の疾病に起因する障害が多いことによる。

● 図表1-9 障害発生時の年齢階級(身体障害者・在宅)



資料：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」(平成13年)

#### 2. 身体障害の原因

在宅の身体障害者(18歳以上)について、障害の原因を見ると、疾病や事故の割合が高いが、不明や不詳も多い。疾病の中では、感染症や中毒性疾患以外の疾患の割合が高く、成人病や原因不明の疾患等によっても障害が発生している。また、事故の中では労働災害が交通事故を若干上回っている。